The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

アリストパネースの「平和」について

細　川　洵　吉

序

Χο.　ἡνίκ᾽ ἂν δ᾽ ἀχέτας
　　ᾄδῃ τὸν ἡδὺν νόμον,
　　διασκοπῶν ἥδομαι
　　τὰς Λημνίας ἀμπέλους,
　　εἰ πεπαίνουσιν ἤ-
　　δη　　(1159-64)
　　(蝉が甘い唄を
　　聞かせる時,
　　レームノスの葡萄畑を
　　見てまわることは楽しいこと,
　　葡萄が熟れたかを見に,) [1]

「平和」の上演は，421年の春の大ディオニュシア祭で，他の二人の競演者エウポリス（作品：追従者，一等賞），レウコーン（作品：プラーテレス，三等賞）で，「平和」は二等賞であった．時あたかも，ペロポネーソス戦争が両軍の総帥クレオーンとブラシダースがアムピポリスの戦闘で

1　コロスによる田園賛歌（1159-64），
"ein wunderbares Bild friedlichen Landlebens," "eines der schönsten Stücke aristophanischer Poesie"(M. Landfester, *Handlungsverlauf und Komik in den Frühen Komödien des Aristophanes*, p. 190, Walter de Gruyter, Berlin, 1977)

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

斃れ，停戦和平への動きが一気に加速して，ニーキアス（アテナイ方）とプレイストアナクス（スパルタ方）間に，ニーキアスの講和条約が締結される直前のことである[2]．この時期に書かれた作品だけに，作品から受ける印象は極めて明るい．因みに，アリストパネースは戦争をテーマにした作品を三点残している．一つは「アカルナイの人々」で425年，大ディオニュシア祭で上演，一等賞を得た．第二は「平和」で二等賞，第三は「女の平和」で上演年代，受賞については不明である．「アカルナイの人々」は，主役ディカイオポリス（正義の都市の意）で，アッティカのアカルナイ地区の農民，「平和」の主役はアッティカのアトモネー地区の葡萄作りの農民である．前者は単身スパルタに乗りこんで和平交渉を，後者はこれも単身，天界に糞黄金虫に乗って赴き，ゼウスに平和を申し入れるというもので，コロス

---

2 ニキアスの停戦は，トゥキュディデスの「ペロポネソス戦争史」に次のように記されている．
Πλειστοάναξ τε ὁ Παυσανίου βασι-
λεὺς Λακεδαιμονίων καὶ Νικίας ὁ Νικηράτου, (πλεῖστα τῶν
τότε εὖ φερόμενος ἐν στρατηγίαις,) πολλῷ δὴ μᾶλλον πρου-
θυμοῦντο, ... (V. XVI)
（ラケダイモン王パウサニアスの子プレイストアナックスとニーケラトスの子ニーキアスが以前よりもはるかに積極的に和平論を提唱した．）
καὶ τόν τε χειμῶνα τοῦτον
ἦσαν ἐς λόγους καὶ πρὸς τὸ ἔαρ (ἤδη παρασκευή τε προ-
επανεσείσθη ἀπὸ τῶν Λακεδαιμονίων περιαγγελλομένη κατὰ
πόλεις ὡς ⟨ἐς⟩ ἐπιτειχισμόν, ὅπως οἱ Ἀθηναῖοι μᾶλλον ἐσ-
ακούοιεν, καὶ) ἐπειδὴ ἐκ τῶν ξυνόδων ἅμα πολλὰς δικαιώσεις
προενεγκόντων ἀλλήλοις ξυνεχωρεῖτο ὥστε ἃ ἑκάτεροι
πολέμῳ ἔσχον ἀποδόντας τὴν εἰρήνην ποιεῖσθαι, ... (V. XVI)
（この冬期を通じ，やがて春に入る頃まで……両者歩みよって，各々戦争行為によって占領した諸領地を相手側に返還することを条件に，平和条約を結ぶことに合意した．）
ὁ δ' ὅρκος ἔστω ὅδε· "ἐμμενῶ ταῖς ξυν-
θήκαις καὶ ταῖς σπονδαῖς ταῖσδε δικαίως καὶ ἀδόλως." (V. XVIII)
（宣誓文は次のごとく定める「この協定と平和条約の条文に，偽心なく，誠意をもって服することを誓う．」）
Αὗται αἱ σπονδαὶ ἐγένοντο τελευτῶντος τοῦ χειμῶνος
ἅμα ἦρι, ἐκ Διονυσίων εὐθὺς τῶν ἀστικῶν, αὐτόδεκα ἐτῶν
διελθόντων καὶ ἡμερῶν ὀλίγων παρενεγκουσῶν ἢ ὡς τὸ
πρῶτον ἡ ἐσβολὴ ἡ ἐς τὴν Ἀττικὴν καὶ ἡ ἀρχὴ τοῦ πολέμου
τοῦδε ἐγένετο. (V. XX)
（この平和条約が成立したのは冬も終わり春に入ったころ，アテーナイでは市内のディオニューシア祭が催された直後であり，年数を数えれば，最初にアッティカ領土への侵攻がおこなわれ今次の大戦が勃発していらい，ちょうど10ヶ年と数日を経過していた．）
（以上は久保正彰訳による）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

にいたっても，前者は炭焼きの老人，後者は農民といった具合で，ほぼ同類であるが，「女の平和」は，主役がアテーナイの一女性，コロスはアテーナイの老人と老女，内容はアテーナイの男性の不甲斐なさに痺れをきらしてリュシストゥラテー（軍を解く女の意）が性ストライキという奇想天外な計画をたて，すべてのギリシャ女性に呼びかけてこれを実行し，男性の積極的な和平実現を促すというものである．

アッティカの葡萄作りの農夫トリュガイオス[3]（「収穫する」という τρυγάω からの作者の造語）は，糞黄金虫（κάνθαρος）又は，黄金虫舟（142），あるいは馬黄金虫（182）（馬はペガサス（Πήγασας）に因んで付け加えたもの）に打ち乗って，天上に赴き，ゼウスと直直談判して平和の女神像を地上に持ち帰ろうとする．糞黄金虫を登場させるには種々の意味がこめられている．作者は，エウリーピデースの悲劇ベレロポンテース（現存せず）の主人公ベレロポーンが天馬ペガサスを駆って，ゼウスの不条理な業に抗議するべく天界に赴く件り，又，アエソポスの寓話の「鷲と糞黄金虫」，これは鷲が糞黄金虫の願いを聞かず，兎を殺したことに腹を立てて，天上に翔んでいってゼウスの懐の巣の中の鷲の卵を放屁して落とすという話，更に，デーメーテールの娘ペルセポネーがハーデースによって冥界に監禁されたのに立腹した母は地上を不毛化した．これにはゼウスも困り果て，ヘルメースを地下界にやってペルセポネーを連れ戻すと地上は再び豊穣化する．これらの神話を念頭に置いたものと思われる．ゼウスへの抗議という点では，三者一致している．平和の女神を連れてトリュガイオスが地上へ戻ると，又，地上は五穀豊穣を取り戻す．

ゼウスは，ギリシャが再三にわたる停戦和平の機会を無視して戦いを続行する（211-2）ことに業を煮やして居を更に天上に移して不在，この間，戦争（神）に業務を代行させる（180-220）．戦争（神）は万人の喜びなる平和（の女神像）（296）を岩屋に閉じこめ，全ギリシャを摺鉢に投げ入れて摺りつぶそうとする（221-288）．戦争（神）の不在の間に，トリュガイオスは，アッティカの農民を含む，全ギリシャ人，職人などを集めて，

3 Τρυγαῖος Ἀθμονεύς, ἀμπελουργὸς δεξιός(190)，（アトモネー区のトリュガイオス，上手なブドー作り）アオモネー区とはアテネの北西４～５マイルに位置するアッティカの市区．

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

女神を引きだそうとするが，足並みが揃わない（289-508）．結局は，農民のみの力で女神像を引きだす（509-19）．平和の女神はオポーラ（秋の実りの姫）とテオーリア（祭のにぎわいの姫）の二姫[4,5]を伴う（520-532）．ヘルメースの命で，テオーリアは民会に引き渡し，トリュガイオスはオポーラと結婚することになる（533-728）．パラバシスIでは，作者が自分の作品が，他の競演者のものに比べて如何に優っているかをコロスが観客に向かって訴える自画自賛であり，パラバシスIIは，平和回復の喜びや，戦場に駆り出される農民の悲鳴など（729-81, 1127-1190）．平和再来の今，トリュガイオス対鎌造り，武具武器造り，戦争商人，更に，占い師ヒエロクレース，二人の将軍（ラーマコス，クレオーニュモス）の子供との滑稽問答（1197-1310）が続く．最後は，トリュガイオスとオポーラ姫の婚礼の宴と歌と踊り（1311-1367）で幕がおりる．

本論では，アッティカ農民を代表する葡萄作りトリュガイオスによって語られる戦争と平和とは如何なるものか，特に，農民にとっての意義を作品のなかに探ろうとするものである．

I 戦争とは

戦争を平和の対立概念と捉えている．

トリュガイオスはアッティカ農民代表者であり，ゼウスから平和（の女神）を奪回する全権委員として，敢然として，これもまたゼウスをも恐れぬ気概を持つ糞黄金虫に打ち乗って天界へと飛翔するのだが，ゼウスはギリシャ人の和平への意欲が見えぬのを腹にすえかねて，更に（つまり人間どもの声の届かぬ所）へと神々を引きつれて居を移すのだが，本心は，ギ

4 二姫オポーラ（秋又は収穫の意）とテオーリア（祭に行くこと，祝祭日の意）は収穫の化身と祝宴の擬人化（die Personifikation der Ernte, die Personification des Festes）（M. Landfester, Handlungsverlauf, p. 173）．

5 平和の女神と女神が伴うオポーラ姫とテオーリア姫は，「平和」に登場する中心的役割を果たす三女性である（以外にない）．三女性とも口をきかないという特色を持つ．この三女性は（農業の）豊穣と平和に欠かせないものの象徴である（参照：L. K. Taaffe, *Aristophanes and Women,* p. 39, Routledge, London & New York, 1994）．

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

リシャの平和を希望するというよりも，むしろ，平和の回復をひきのばし，更に，戦争の続行を意図していると受けとめることができる[6]．それは，ゼウスは　館を移すに際して，人間界の支配を戦争（神）に託したという事実が物語っている[7]．戦争（神）はギリシャの支配権を委託されたからには，戦争を続行させることがゼウスへの義務となる．

次に戦争（神）は平和の女神を岩屋に閉じこめるということであるが，これもまた，停戦和平は愚か，戦争の続行を意味する．ゼウスの意志は，戦争（神）によって成就されるのである．ゼウスは平和の女神を掘り出すところをつかまった者を死刑にした（371-2）とは平和を敵対視する者の行為である．

「人間よ，すぐさま，お前たちをひどい目にあわせてやる」[8]と言って戦争（神）は，全ギリシャの全都市を摺鉢に投げ入れて，摺りつぶそうとする．これは，ギリシャ人を徹底的に戦わせて破滅させようとする魂胆である．禍に満てる（ギリシャの）人間（βροτοὶ πολυτλήμονες）は，メガラ（にんにくの生産地であり，アテーナイの敵方）[9]，ラコーニアもシケリア（チーズの産地）も，アッティカ（蜂蜜の産地）もラケダイモーン（スパルタ）も無差別に摺りつぶそうとする．そして，擂粉木とは，即ち，アテーナイのギリシャをひっかきまわした革屋（ὁ βυρσοπώλης, ὃς ἐκύκα

6　Ἑρ：ὁτιὴ πολεμεῖν ἡρεῖσθ᾽ ἐκείνων πολλάκις
σπονδὰς ποιούντων· (211-2)
（お前たちは皆戦いの方を選びつづけたからだ．神々が屢々休戦させようと努めたのに．）

7　Ἑρ：Ἕλλησιν ὀργισθέντες. εἶτ᾽ ἐνταῦθα μὲν
ἵν᾽ ἦσαν αὐτοὶ τὸν Πόλεμον κατῴκισαν,
ὑμᾶς παραδόντες δρᾶν ἀτεχνῶς ὅ τι βούλεται· (205-6)
（彼等はギリシャ人のことで腹を立てている．それで，彼等は，これまで生活してきた館に戦争に棲まわせて，お前たちを彼の思いのままに処理させた．）

8　Πο：ἰὼ βροτοὶ βροτοὶ βροτοὶ πολυτλήμονες,
ὡς αὐτίκα μάλα τὰς γνάθους ἀλγήσετε. (236-7)
（おお，人間どもよ，人間どもよ，禍多き人間共よ．強烈なチョップを受けることになるぞ．それも間もなくだ．）

9　Πο：ὦ Μέγαρα Μέγαρ᾽ ὡς ἐπιτετρίψεσθ᾽ αὐτίκα
ἁπαξάπαντα καταμεμυττωτευμένα. (246-7)
（メガラよ，お前はすぐに潰されてしまうぞ．それも徹底的にだ．ペーストにされるぞ．）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

τὴν Ἑλλάδα）（270），つまり，クレオーンのことである．戦争（神）の筆頭従者（家臣）はアテーナイのデマゴーグであり，強硬な主戦論者クレオーンである．

ゼウスは，ギリシャ人の和平実現を一旦は期待したが，その見込みがないとこれを断念し，諸神を率いて再び天上へと居を移した．ゼウスは好戦者である．平和を望みはするが，戦いを平和の手段と考えているのかも知れない．今回は，いっそのこと人間（ギリシャ人——主にアテーナイ人）をつっぱねて，戦争を続けさせ，その反応を見ようとしたとも考えられる．更に天上に移ることは，人間共の声の届かぬ所で，人間共の泣きごとや哀願の聞こえぬところへの移転を意味する．又，トリュガイオスが平和の女神を連れて地上に帰還するべく糞黄金虫を探すが，ゼウスは，これに戦車を引かせて雷を運ばせている（723）．これはゼウスが別の戦いの場を探しているともとることができる．そして，その間，戦争（神）に人間の戦いを最も過酷な形で継続させ，痛い目にあわせようとする．だが平和を望むアッティカ農民はこのようなゼウスの真意を解し得ない．ゼウスは戦争の責任をすべて戦争（神）におしつけてギリシャ人を徹底的に戦わせようとする極めて無責任な戦争煽動者，平和を斥ける平和の敵対者ととらえているのである．

戦争は飢餓の象徴である．

天上界（神界）の飢餓．

トリュガイオスがゼウスの館に赴くと，ゼウスは留守でヘルメースは道具番をしている．ヘルメースは不機嫌である．其の理由は空腹にある．だが，トリュガイオスの持参した肉の土産に一転して上機嫌となり，それからは，トリュガイオスの用件を聴き，彼のよき助言者となり，又，助力を惜しまない[10]．これは，戦争がもたらす飢餓が地上ばかりか神々の棲む天界にまで及んでいる証左である．このような情況では神々の人間界の支配が農民にもよきものとして及ぶ筈はない．（衣や）食が足りてこそ，神々

10 Ἑρ： ἥκεις δὲ κατὰ τί;
Τρ： τὰ κρέα ταυτί σοι φέρων.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

の意志はより能く実現されるものと思われる.

地上の飢餓.

農夫トリュガイオスが糞黄金虫にまたがり飛びたとうとするのを見て二人の娘が,「海の深みに落ちればいかがします」(140) といって, これを制する. 父はおまんまを欲しがっている娘を残して出発する[11]. 食糧を生産する農夫でさえも食にこと欠く有様. それは, スパルタ兵に田畑を荒らされ, スパルタ兵に陸路を絶たれて生産された穀物などの輸送がままならず, 果樹もまたスパルタ軍によって切り倒され焼かれたためである.

又,「兎の肉を鱈腹喰え」[12] とトリュガイオスは婚礼に招待された農民に言う. 宴会であっても肉が卓上に乗ることが稀になったことも食糧不足を物語る一齣ととることができるし, また, これもスパルタ兵侵入のために狩猟が思うように出来ないことを示しているのである.

平和の女神を岩屋から引きだそうとするとき,「平和を願うものは元気よく引け」(498) とトリュガイオスが励ましても空腹のためメガラ人[13]は力が入らない. アルゴス人も同様, 又, ピュロスの捕虜 (スパルタ方) も加わっているが「木に齧りついている」(479) といった状態で, 力が入らなかったり引く方向がまちまちで (これは彼らがアテーナイ方につくか, スパルタ方につくか, あるいは, どちらにもつかないことを示すもの)

Ἑρ : ὦ δειλακρίων πῶς ἦλθες;
Τρ : ὦ γλίσχρων ὁρᾷς
ὡς οὐκέτ᾽ εἶναί σοι δοκῶ μιαρώτατος;
ἴθι νυν κάλεσόν μοι τὸν Δί᾽. (192-3)
(ヘル : それで, 何の用でここへ来たのだ.
トリュ : この肉をお前さんにあげるためだ.
ヘル : ようこそ, こやつめ.
トリュ : このガツガツ屋, それじゃ俺は, もう下衆じゃないな. さあ, ゼウスを呼んでこい.)

11 Τρ : δοξάσαι ἔστι κόραι, τὸ δ᾽ ἐτήτυμον ἄχθομαι ὑμῖν,
ἡνίκ᾽ ἂν αἰτίζητ᾽ ἄρτον πάππαν με καλοῦσαι, (119-20)
(いいかい, 娘たちよ, だが, 実を言うと, お前たちがわしにパンをねだって, とつっあんと呼ばれる時にゃ, いつも辛いよ.)

12 ὦ πρὸ τοῦ πεινῶντες ἐμβάλλεσθε τῶν λαγῴων· (1312-3)
(さあ, 今までひもじい思い悩める者どもよ, 兎の肉を鱈腹食べるがよい.)

13 Τρ : οὐδ᾽ οἱ Μεγαρῆς δρῶσ᾽ οὐδέν· ἕλκουσιν δ᾽ ὅμως
γλισχρότατα σαρκάζοντες ὥσπερ κυνίδια — (481-2)
(メガラの者どもも埒があがらない. まだ, 小犬のように骨を齧りながら引っぱっている.)

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

あったりする．これもまた，飢餓の一齣．（ペリクレスの対スパルタ戦略は，陸上の覇権はスパルタに譲り，自国は海上を制することにあった．これは功を奏したが，反面，アッティカの土地はスパルタ軍に荒らされ，陸路は絶たれ，多分に輸入食糧に頼っていたアテーナイの食糧事情は険悪なものとなった．）

一国の市や町や邑の市場に並べられている品を見れば，その国の食糧事情は一目瞭然．食糧の品薄のために民の嘆きの声が聞こえる．メガラのにんにく，胡瓜，果実，ボイオーティアの家鴨など肉類が何れをとってみても庶民の手の届かぬものとなる[14]．食糧を生産する農民とて例外ではない．ひもじさを訴えるトリュガイオスの娘たちの声が痛ましい．

農民が強いられる犠牲．

再三述べることであるが，スパルタ軍がアッティカに侵入して農地を荒らし，果樹を伐採してこれを焼き[15]，この戦争の最大の被害者，犠牲者は農夫，葡萄作り，無花果の栽培者であった[16]．又，このような犠牲は，アッ

---

14 Τρ： καὶ τὴν ἀγορὰν ἡμῖν ἀγαθῶν
ἐμπλησθῆναι, μεγάλων σκορόδων,
σικύων πρῴων, μήλων, ῥοιῶν.
δούλοισι χλανισκιδίων μικρῶν·
κἀκ Βοιωτῶν γε φέροντας ἰδεῖν
χῆνας νήττας φάττας τροχίλους·
καὶ Κωπᾴδων ἐλθεῖν σπυρίδας, (999-1005)
（われらの市場を賜物で満たしたまえ．メガラのにんにく，早なりの胡瓜，林檎，石榴，我々の奴隷用の毛の上っぱり，それから，ボイオーティアからの鵞鳥と家鴨，鳩に鴫，それから，コーパイスの鰻が篭いっぱいにやってきて．）

15 Ἐρ： ὡς δ᾽ ἅπαξ "τὸ πρῶτον ἄκουσ᾽" ἐψόφησεν ἄμπελος
καὶ πίθος πληγεὶς ὑπ᾽ ὀργῆς ἀντελάκτισεν πίθῳ,
οὐκέτ᾽ ἦν οὐδεὶς ὁ παύσων, ἥδε δ᾽ ἠφανίζετο. (612-4)
（それから，最初に葡萄の木が，どうしようもなくパチパチと燃え始め怒りのために酒瓶が酒瓶を蹴飛ばし，誰一人これを止める者はないので，この女神さまは姿を消したのだ．）

16 "at last it is seen that the only people who are honestly pulling, with one mind and no thought of anything else, are the husbandmen — farmers, vine-growers, olive-growers, and the like — who in all nations equally are *the first sufferers from the war*"(Gilbert Murray, *Aristophanes*, OUP, 1933).
「ここに至って心を一つにして，他のことは何も考えずにひたすら綱を引いているのは農夫であって葡萄づくりでありオリーヴづくりといった農夫であることが分かる．そして，農夫はどこの国でも真っ先に戦争の犠牲者となる」

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

ティカ農民に止まらず，敵方スパルタの農民にも言えることである[17]．アテーナイ海軍は敵国の海を制し，乗船していた歩兵が敵地に上陸して掠奪したり，農地を荒らしたりした[18]．密告を嫌い，誠実で愛国の情篤い農民[19]は，兵役に駆り出され，不平も不満も言わずに黙従した．農民を除く公務員や民会員，その他の市民などは，兵役を免れる方法をあれこれと考えだしたのとは好対照である[20,21]．徴兵制は農民には厳しく，町民には甘かっ

---

17 Ehrenberg は "Undoubtly the farmers had to suffer more than anybody else during the Spartan invasions. … *Even in Sparta*, it is said, it was the peasants and not the 'big people' who suffered in war, …, who had suffered from Athenian raids"(Peace, 622ff.) (V. Ehrenberg, *The People of Aristophanes*, Oxford, 1946).
（スパルタでもアテーナイ海軍によって同じような苦しみをスパルタ農民は被っていた.）

18 Ἑρ： αἱ γὰρ ἐνθένδ᾽ αὖ τριήρεις ἀντιτιμωρούμεναι
οὐδὲν αἰτίων ἂν ἀνδρῶν τὰς κράδας κατήσθιον.
Τρ： ἐν δίκῃ μὲν οὖν, ἐπεί τοι τὴν κορώνεών γέ μου
ἐξέκοψαν, ἣν ἐγὼ ᾽φύτευσα κἀξεθρεψάμην.（626-9）
（ヘル：というのは，ここから復讐のために送られた三重櫓舟員が，全く罪のない農民の木になっている無花果を喰いつくしたのだからだ.
トリュ：そりゃ当然のこと，それ相応のことをしたまでのことだよ．だって，あいつらは，わしの無花果を切り倒したのだから．わしの植えて大事に育てた.）

19 "The condition of real life seems to be reflected when the three vocations of peasant, merchant and artisan, all of them equally 'virtuous and patriotic' are opposed to the activities of the mischief-making sycophant"(V. Ehrenberg, *The People of Aristophanes*, p. 91, Oxford, 1951).

20 Χο： ἡνίκ᾽ ἂν δ᾽ οἴκοι γένωνται, δρῶσιν οὐκ ἀνασχετά,
τοὺς μὲν ἐγγράφοντες ἡμῶν τοὺς δ᾽ ἄνω τε καὶ κάτω
ἐξαλείφοντες δὶς ἢ τρίς. αὔριον δ᾽ ἔσθ᾽ ἡ ᾽ξοδος·
τῷ δὲ σιτί᾽ οὐκ ἐώνητ᾽· οὐ γὰρ ᾤδειν ἐξιών·
εἶτα προστὰς πρὸς τὸν ἀνδριάντα τὸν Πανδίονος
εἶδεν αὑτόν, κἀπορῶν θεῖ τῷ κακῷ βλέπων ὀπόν.
ταῦτα δ᾽ ἡμᾶς τοὺς ἀγροίκους δρῶσι, τοὺς δ᾽ ἐξ ἄστεως
ἥττον,（1179-86）
（そして，あいつらが国にいる時には，あいつらのやることときたら我慢ならん．奴等は，我々の名前を徴兵名簿に加えたり消したりして，ひどいことに，それも二度三度と書きなおす．我々は明日は出陣だ．だが，奴は携帯食をまだ買ってない．まさか，出陣するなどとは思っていなかったものだから．そこで，奴は，パンディオーンの像の前に立って，自分の名前を見て，吃驚仰天，不幸に困りはてて走って行く．奴等は百姓どもにこういうことをしているのだ．そして，都会の奴等には甘いのだが.）

21 "On comptait parmi eux un grand nombre de fonctionnaires, et beaucoup d'exemptés de droit comme les membres du Sénat. Les autres cherchaient à se soustraire au service. Si parmi les hommes inscrits sur les rôles du recrutement, il y en avait que la pureté de leurs sentiments démocratiques eût signalés à la faveur des taxiarques, ceux-ci savaient bien, par de faciles interversions dans l'ordre des noms, les affranchir de la corvée. Quant l'Assemblée avait décidé qu'une levée partielle serait faite, et avait fixé le chiffre

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

た．従って，農民は，都市住民の分までも兵役の負担を倍加して負わされていたのである．

道徳の頽廃を生むのが戦争である．平和の女神がヘルメースを通じてソポクレースの安否を問うたところ，トリュガイオスが「達者だがシモーニデースになった」(695-7) と答える．ソポクレースは高潔有徳な大悲劇詩人で，二度まで将軍（στρατηγός）に推され，また，シキリア出兵の敗北後は，10 人委員，特別委員に推挙された程の人格者であり勇敢な戦士でもあった[22]が，一方，シモーニデースは合唱隊歌で名を残した[23]大叙情詩人だが詩を売ったという汚名を残した．ソポクレースがシモーニデースのように貪欲になったと言っていることは戦争が生む道徳の頽廃，倫理観の低下，堕落の一面を比喩したものととることができる．開戦当初は緊張感からこのような現象は稀であったろうが，戦いが長びくと緊張感が次第に弛緩，堕落へと傾いていく．政治家，将軍を筆頭に庶民に至るまで，デマゴーグ，讒言，誹謗などによる浮上，凋落は世の常だが，戦争が長びけば長びくほどこうした傾向が顕著となるのである（603ff.）農民とて例外とは言い難い．

戦争は悪，暴政が生みだすものである．

デマゴーグ，クレオーンの如き悪しき政治家のなせる業，戦争（神）が摺鉢で全ギリシャを摺りつぶす時の擂粉木は「ギリシャをひっかきまわした革屋」[24]クレオーンのことである，ἐκύκα と κυκάω の未完了過去を用

---

des soldats à engager, le taxiarque devait prendre à la suite dans la liste des inscrits de chaque année un certain nombre d'hoplites. Il lui arrivait, pavaît-il, de choisir les uns et d'oublier les autres"(A. Croiset, *Aristophane et L'Ancienne Comédie Attique,* p. 87, Société Française d'Imperie et de Librairie, Paris, 1902).

22 P. Harvey, *The Oxford Companion to Classical Literature*, s.v. 'Sophocles,' p. 401, O.U.P., 1966

23 S. D. Olson のコメンタリーによれば，ソポクレースはエウリピデスよりもアリストパネースに高く評価されていて，後者の詭弁性は「蛙」の中でこれが批判されている．女神はエウリピデスには何の興味を示していないとしている．又，シモニデスは優れた抒情詩人だったが詩を金のために書いた．

24 Κυ： τὸ δεῖνα γὰρ
ἀπόλωλ' Ἀθηναίοισιν ἁλετρίβανος,
ὁ βυρσοπώλης, ὃς ἐκύκα τὴν Ἑλλάδα.（269-270）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

いているのは，この時点でクレオーンが既に過去の人であることを物語るもの．因みにクレオーンの「平和」の中での出番は，固有名詞で現れるのが一度，他は何れもメタファーで「ケルベロスの犬」(752)，「革の恐ろしい嗅気」(752)，「革屋」(270) と三度である．ケルベロスの犬とは冥界の番犬のことで，これも，彼があの世へ逝っていることを暗示しているもの．従って，「平和」では，「アカルナイの人々」や「騎士」に比べてクレオーンへの風当たりは弱い．「アカルナイの人々」では，クレオーンをラマコスに，「騎士」では，パプラゴニア人のデーモス家の下男に置き換えて痛烈に攻撃しているのとは好対照である．「平和」にはクレオーンのなきあとを「ランプ屋」(690) としてデマゴーグ，ヒュペルボロスの名前があがっていて，プニュクスの丘の石壇（民会の場）の支配者となっていて，これも又，悪しき政治家であり，国民，わけても農民を苦しめる悪しき政治家，暴政家なのである．

II　平和とは

「いとも厳かなる姫の君，平和の女神，歌舞の司，結びの司」(972) を岩屋から引きだすとき，「われわれ，百姓だけでやろうぞ」と農民が一丸となってこれを成し遂げた．これは，農民の平和志向の如何に強いかを示すものである．農民以外の引き手は飢えや，平和よりも戦争志向とか，又，アテーナイに与することを潔しとしないなど，夫々が，その事情を抱えていて，平和の女神をひきだすことに消極的であったり，これに反意を示すのに反して，農民にとっては，平和は命懸けの悲願[25]である．そして，この「われわれはもう 10 と 3 年あなた（平和の女神）を恋いこがれている」(οἵ σου τρυχόμεθ᾽ ἤδη τρία καὶ δέκ᾽ ἔτη) (989-90) 悲願が，一糸乱れぬ

（それがね，アテーナイ人共が，その擂粉木をなくしたんです．ギリシャをひっかきました革屋をですよ．）

25 Yet the peasants' desire for peace is not a matter of pure reasoning and opportunism. It results from the specific attitude of peasants who can combine sober and material calculation with an unreasoning devotion to land, to home and garden, to their crops and their cattle (V. Ehrenberg, *The People of Aristophanes*, p. 314).

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

結束となって「女神のなかでも一番楯嫌いの君」(662) を引きだすのに成功するのである.「思えば長い年月であったな」(ἡμῖν ἐστι πολλοστῷ χρόνῳ) (559) だったのである.

農民にとっての平和とは:
— τόν τε φήληχ᾽ ὁρῶν οἰδάνοντ᾽·
εἶθ᾽ ὁπόταν ᾖ πέπων,
ἐσθίω κἀπέχω
χἄμα φήμ᾽, "ὧραι φίλαι"· καὶ
τοῦ θύμου τρίβων κυκῶμαι·
κᾆτα γίγνομαι παχὺς
τηνικαῦτα τοῦ θέρους — (1164-71)
(それからまだ熟れぬ
無花果が膨らむのを見るのも楽しみ.
そして熟れれば貪り喰らうのだ.
いい季節だなと言いながら,
タチジャコウソウ (タイム) を摺りつぶして
あれに利くやつを作るのだ.
そして今じゃ太ってまるまる
この夏の盛りに.)

戦時には, こんな生活は望めない. 平和なときには, 畑を耕し, 果樹を育て, 牛や羊を飼育することこそ農民にとっては至上の幸福である[26].

妻を娶り, そして「嚊が子を産み」[27], これを育てて一人前の後継者と

26 Xo: ὦ ποθεινὴ τοῖς δικαίοις καὶ γεωργοῖς ἡμέρα,
ἄσμενός σ᾽ ἰδὼν προσειπεῖν βούλομαι τὰς ἀμπέλους,
τάς τε συκᾶς, ἃς ἐγὼ ᾽φύτευον ὢν νεώτερος,
ἀσπάσασθαι θυμὸς ἡμῖν ἐστι πολλοστῷ χρόνῳ. (556-9)
(正しき者と農夫が長い間待ち望んだ今日, あなた様にお会いできて嬉しうござる. そして, 葡萄の木に挨拶したい気持ちは山山. わしが若い頃自分で植えた無花果の樹にキスしたい気持. その日がとうとうやってきたのだ.)

27 Xo: τάς τε γυναῖκας τίκτειν ἡμῖν,
καὶ τἀγαθὰ πάνθ᾽ ὅσ᾽ ἀπωλέσαμεν

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

する．これは農夫にとってのみのことではないが，特に農夫は頑健な後継者が必要なのである．これも又，農民が平和時に寄せる心から願うところ．戦時には，このようにして成長した男子が戦場へと駆り立てられていく．戦場へ引きだされた男子は嫁とりもかなわず，従って後継者を得ぬ場合も多々あったろうし，深刻な問題である．戦さによって失われたものの復興再生も平和に於いてのみ成し得るものである．

平和とは「輝く刀がなくなること」(λῆξαί τ᾽ αἴθωνα σίδηρον)（1330）．戦いには武器はつきもの．だが，平和な時には槍も剣も不要である．だから平和をつくり出すことは即ち，武器をなくすことから始まる．武器廃絶こそ平和の絶対条件である．武器は農民（ばかりか一般庶民）を絶えず脅迫し，農民の根絶さえも辞さない．農民の声は即ち，「武器よさらば」である．

諸神の祭礼が滞りなく行われることである．

古代ギリシャにおいては，政治と宗教が密接不可分なものであった．政治とは勿論，経国済民の謂だが，同時に，良き政治とは諸神の祭礼を立派に執り行うことである．だが，一旦，戦争が始まれば，諸々の支障が生じる．ペリクレスの対スパルタ戦略は，部分的には成功したが，スパルタ軍に地上の覇権を許すという点で，この犠牲を農民が最も受けたのだが，陸路は絶たれて，物資の輸送も人の往来もままならぬ．大都市アテーナイから始まって，地方の小邑に至るまで，規模の大小はあれ，祭の行列，祭に集まる人々の往来を戦争は不可能にした[28]．又，祭礼に必要な物資も供給が不如意となる．こうしたことから，戦時には，神々の祭礼は時には全く行われないこともあったであろう．トリュガイオスが「祭のにぎわいの姫」

συλλέξασθαι πάλιν ἐξ ἀρχῆς,
λῆξαί τ᾽ αἴθωνα σίδηρον.（1327-30）
（嚊は子を生み，共に失くしたものを元に戻し，そして，輝く刃には，おさらばだ．）

28 Τρ： αὕτη Θεωρία ᾽στίν,
ἣν ἡμεῖς ποτε
ἐπαίομεν Βραυρωνάδ᾽ ὑποπεπωκότες;（873-4）
（これが，わしらが，その昔，酒をあおり，太鼓を打ち鳴らしてブラウローンへ向かう時に迎えた祭のにぎわいの姫だな．）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

を民会に渡すときに，「それから，この女を持っていれば，すぐさま，明日にも全くすばらしい競技ができますぜ……」(894-5) と述べる．この女とは祭のにぎわいの姫で，これは，祭礼を行う際に戦争のために支障となっていたものを悉く取り払って平和時のときのように立派に諸神の祭礼ができることを意味する[29]．

農業をはじめ平和産業が栄え，戦争屋が衰退する．

戦時には農耕，果樹の栽培，家畜の飼育が満足に行えない．特にアッティカ農民の場合はそうである．鎌は農具の一つ，鎌，鍬，鋤など農具が十分に使用されないまま錆びてしまう．農具は造っても売れない．一方，武器を造り，これを商う者は栄える．そして，平和の世界となると夫々の立場が入れ代わる[30]．武器商人がやってきて(1208-9)，兜の飾毛屋，胴鎧屋，ラッパ屋，槍研師も，夫々が商売あがったり，(μ᾽ ὦ Τρυγαῖ᾽ ἀπώλεσας.) (1210) と嘆く．胴鎧は，便器の金隠しに，ラッパは鉛をつめてコッタボスに，槍は葡萄の添え木にといった具合に平和転用が望ましい (1210-69)．平和産業の歓呼と戦争屋の悲鳴が聞こえる．

---

29 Τρ： ὦ φίλ᾽ Ἑρμῆ ξύλλαβε
ἡμῖν προθύμως τήνδε καὶ ξυνέλκυσον.
καί σοι τὰ μεγάλ᾽ ἡμεῖς Παναθήναι᾽ ἄξομεν
πάσας τε τὰς ἄλλας τελετὰς τὰς τῶν θεῶν,
μυστήρι᾽ Ἑρμῆ, Διπολίει᾽, Ἀδώνια· (416-20)
(さあ，ヘルメースさん，わしらに手を貸し，女神を引き出すのを手伝ってくだされ，そしたら，あなたの為に，わしらは大パンアテーナイア祭や，他に神々の祭りに全て，デーメーテール，ゼウス，アプロディーテーのお祭りも，ヘルメースの祭りにします．)

30 Δρεπανουργός： ὦ φίλτατ᾽ ὦ Τρυγαῖ᾽ ὅσ᾽ ἡμᾶς τἀγαθὰ
δέδρακας εἰρήνην ποιήσας· ὡς πρὸ τοῦ
οὐδεὶς ἐπρίατ᾽ ἂν δρέπανον οὐδὲ κολλύβου,
νυνὶ δὲ πεντήκοντα δραχμῶν ἐμπολῶ· (1198-1201)
(鎌作り：親愛なるトリュガイオスの旦那，あんたは世の中を平和にして，わしらをどんなに幸せにしてくれたことか，今日のこの日まで誰一人，鎌にびた一文も払ってくれなかったのに，今じゃ，50 ドラクマで売れるわい．)

Ὁπλων καπηλός： ὦ δυσκάθαρτε δαῖμον ὥς μ᾽ ἀπώλεσας,
ὅτ᾽ ἀντέδωκά γ᾽ ἀντὶ τῶνδε μνᾶν ποτέ·
καὶ νῦν τί δράσω; τίς γὰρ αὖτ᾽ ὠνήσεται; (1250-2)
(兜屋：何と無慈悲な神よ，わしゃ，もう破滅じゃ．だって，これじゃあ，いままでは，この兜に 1 ムナー支払った．これからは，どうしたらよかんべ．誰がこれを買ってくれる．)

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

平和とは，よく研がれた鍬（σφῦρα λαμπρὸν）（566）である．戦争は農業生産を停滞させ，更に阻止する．農具の使用が稀となり，又，不可能ならしめる．戦争とは，斯くの如く鍬の錆を意味する．一方，戦時には，槍と剣は研ぎすまされて殺戮そのものとなる．平和は「秋の実りの姫」を伴って研がれた剣ではなく，研がれた鍬を農民に届けるのである．

兵役免除万歳．

農民にとっての平和とは，また，徴兵名簿に名前が載ることのない日の到来を意味する（1179-86）．又，農民が戦場に駆り出された時，屡々目撃する隊長の見苦しい振る舞い，負け戦ともなれば，命惜しさに顔面蒼白，鶏の脚を持った馬の如くに一目散に逃げていく．兵士はひとり取り残されて幻滅を感じさせられる[31]．平和が蘇れば兵役免除の臭いのする祭のにぎわいの姫のご来臨を仰いで戦争（神）と訣別することができる[32]．

結　び

戦争とは，平和の敵である．取り分け，農民にとっては平和を犯すもの．この事実は明々白々の事実であるだけ一層忘れがちのものである．戦争は戦争によって利益を得る者以外の全ての者に破壊をもたらすものであり，逆に平和は破壊なき生産をもたらす．破壊は不幸を，生産は幸せへの道を拓く．戦争の最大の犠牲者は命の糧を生産する農民である．「平和」は，

---

31 Χο：　ἢν δέ που δέῃ μάχεσθ᾽ ἔχοντα τὴν φοινικίδα,
τηνικαῦτ᾽ αὐτὸς βέβαπται βάμμα Κυζικηνικόν·
κᾆτα φεύγει πρῶτος ὥσπερ ξουθὸς ἱππαλεκτρυὼν
τοὺς λόφους σείων· ἐγὼ δ᾽ ἕστηκα "λινοπτώμενος". (1175-8)
（だが，あいつ（隊長）が，あの出で立ちで戦わにゃならぬ段になると顔が真っ青になって命からがら逃げて行く．馬鶏さながらに．ところが，わしの方は，後にとり残されて，兎狩りの罠番のように．）

32 Τρ：　ὦ Θεωρία.
οἷον δ᾽ ἔχεις τὸ πρόσωπον ὦ Θεωρία,
οἷον δὲ πνεῖς, ὡς ἡδὺ κατὰ τῆς καρδίας,
γλυκύτατον ὥσπερ ἀστρατείας καὶ μύρου. (523-26)
（祭のにぎわいの姫，あなた様は何と美しいお顔をしておいでか！　女神さま，何と芳しく，わしの心はうっとり，何と甘く，兵役免除の香水だ！）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

アッティカ農民を代表する葡萄作りのトリュガイオスが単身ゼウスと敢然と対決し，戦争を退けて平和の象徴なる女神を，神々のなかで最も崇高にして最良の葡萄作りの友である女神（τὴν θεῶν πασῶν μεγίστην καὶ φιλαμπελωτάτην.）（308）を伴って地上に還る英雄の凱旋の歌（heroic triumphant hymn）である．トリュガイオスはアッティカ全農民の平和への悲願成就の使命を達成するのであるが，彼の場合は，ディカイオポリスと違って，単にアッティカ農民のためでなく，スパルタをも含む全ギリシャ的（pan hellenic）な平和獲得である．彼は全ギリシャの英雄であり，全ギリシャの救世主（σωτὴρ γὰρ ἅπασιν ἀνθρώποις — 915）である[33,34,35]．

τίς οὖν ἂν οὐκ ἐπαινέσειεν
ἄνδρα τοιοῦτον, ὅστις
πόλλ᾽ ἀνατλὰς ἔσωσε
τὴν ἱερὰν πόλιν;
ὥστ᾽ οὐχὶ μὴ παύσῃ ποτ᾽ ὢν
ζηλωτὸς ἅπασιν. (1033-8)
今では，誰がこのような男を称賛しないでおられよう．
度重なる苦難を乗り越えて，
われらが聖なる都を救いし者を．
更には，お前は未来永劫に
皆の憧れの的となろう．）

33 Xo： τίς οὖν ἂν οὐκ ἐπαινέσειεν
ἄνδρα τοιοῦτον, ὅστις
πόλλ᾽ ἀνατλὰς ἔσωσε
τὴν ἱερὰν πόλιν; (1033-6)
（今では，人というひとが皆この男を称賛するだろう．勇敢にも幾多の苦難を乗りこえて我らが聖なる都を救ったのだから．）

34 "Clearly Trygaios here is not to be imagined as a new Dikaiopolis who has gained something for himself but as a representative Athenian farmer in whose achievement all his fellow-citizens, whether he likes them or not, necessarily share. His wedding is the newly-won state of peace"(K. J. Dover, *Aristophanic Comedy*, p. 139, University of California Press, 1992).

35 "Trygaios talks the language of altruism, and that not only in the name of Athens but in the name of the whole Greek world"(ibid. p. 137).

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

アリストパネースは，その不条理で暴力の君臨のもとで凡てを破壊しつくし，再生の可能性の芽をも摘みとってしまう戦争を農民の立場から眺めた．しかも，この戦争たるや異国ペルシャとの戦いとは異なるギリシャの同胞アテーナイ，スパルタ間のものである．かつて，ギリシャにとって常に脅威であったペルシャとの戦いでは，自国の威信と平和のためにギリシャは挙国一致，これと戦ったが，ペロポネーソス戦争は自国の都市間の争いである．血を分けあった同胞の争いである．このことを作者は深く憂い，この終決を切に望んでいた[36]．そして，この和平実現の希望が見えてきた昨今，作者は，シナリオの実現を，戦争の最大の犠牲者である（全）ギリシャの農民の平和の希求を，神界から下界に亙って，戦争がもたらす諸悪，諸弊害を，或ものは想像により，或ものは現実のものとして劇化し，悲喜交々，哄笑と歓喜のうちに歌いあげたのである．

Bibliography

Texts:

Hall, F. W. et Geldart, W. M., *Aristophanis Comoediae,* Oxford, 1988

Coulon, Victor, *Aristophane Comédies*, Les Belles Lettres, Paris, 2002

Olson, S. Douglas, *Aristophanes,* Peace, Oxford, 2003

Reference Books:

Bowie, A. M. *Aristophanes, Myth, Ritual and Comedy,* Cambridge U.P., 2005

Croiset, Alfred, *Aristophane et L'ancienne Comédie Attique,* Société Française d'Imperie et de Librairie, Paris, 1902

Dover, K. J. *Aristophanic Comedy,* University of California Press, Berkeley and Los Angels, 1992

Ehrenberg, Victor, *The People of Aristophanes,* Basil Blackwell, Oxford, 1951

---

36 Λυ: τί δῆθ᾽ υπηργμένων γε πολλῶν κἀγαθῶν
μάχεσθε κοὐ παύεσθε τῆς μοχθηρίας;
τί δ᾽ οὐ διηλλάγητε; φέρε τί τοὐμποδών; (ΛΥΣΙΣΤΡΑΤΗ, 1159-61)
（こんなにまでお互いに思いやっていたのに，何故あなた方（アテーナイ人とラコーニア人）は闘い，争いを止めようとしないのですか．どうして仲直りしないのですか．ねえ，何が邪魔になっているのかしら．）

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

Harvey, Paul, *The Oxford Companion To Classical Literature,* O.U.P., Oxford, 1966
高津春繁『ギリシャ喜劇全集 I，平和』（解説つき），人文書院，昭和 51 年
高津春繁『古代ギリシャ文学史』，岩波書店，1977 年
Landfester, Manfred, *Handlungsverlauf und Komik in den Frühen Komödien des Aristophanes*, Walter de Gruyter, Berlin, 1977
MacDowell, Douglas M., *Aristophanes and Athens,* O.U.P., Oxford, 1995
Murray, Gilbert, *Aristophanes, A Study,* O.U.P., Oxford, 1933
Segal, Erich, *Oxford Readings in Aristophanes*, O.U.P., New York, 2002
Taaffe, Lauren K., *Aristophanes and Woman,* Routledge, London and New York, 1994
Thucydide, *La Guerre du Péloponnèse,* livres IV et V, texte établi et traduit par Jacqueline de Romilly, Les Belles Lettres, Paris, 2003
Whitman, Cedric H., *Aristophanes and the Comic Hero,* Harvard University Press, Cambridge, Massachusetts, 1964

NII-Electronic Library Service